

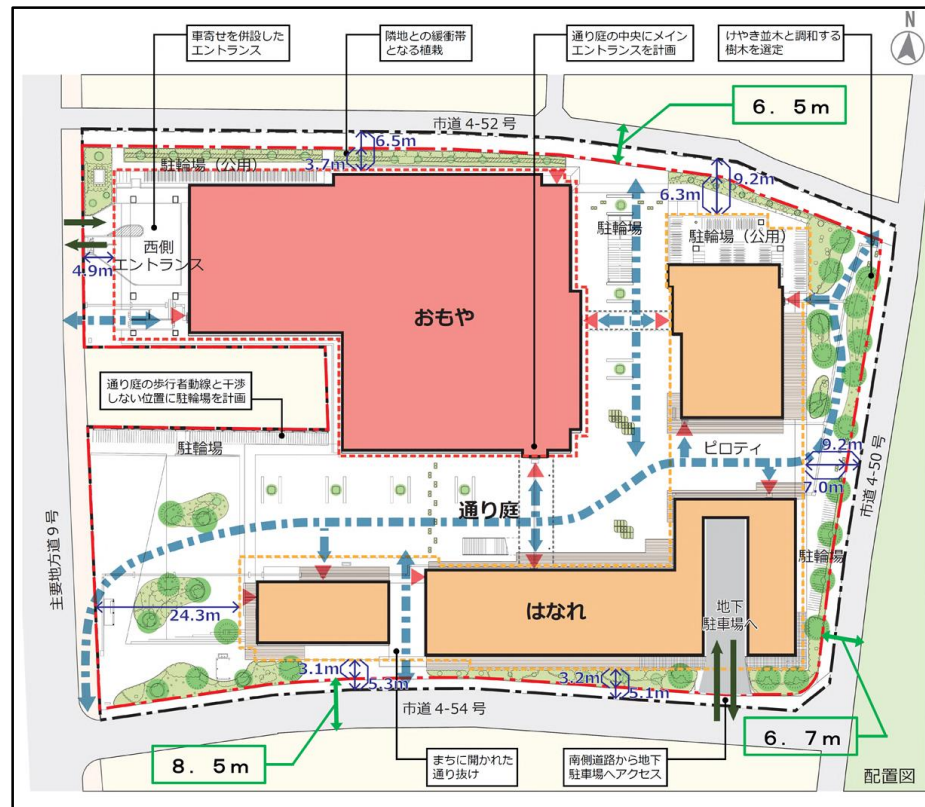
府中市新庁舎建設工事 進捗状況（第1回）

（R3.10/25発行）

【建物概要】

| | |
|------|-----------------------|
| 敷地面積 | 11,064.85㎡ |
| 用途 | 事務所、図書館、店舗、駐車場 |
| 構造 | 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造) |
| 階数 | 地上6階 地下1階 |
| 最高高さ | 30.14m |
| 延べ面積 | 32,362.67㎡ |
| 建築面積 | 6,349.29㎡ |

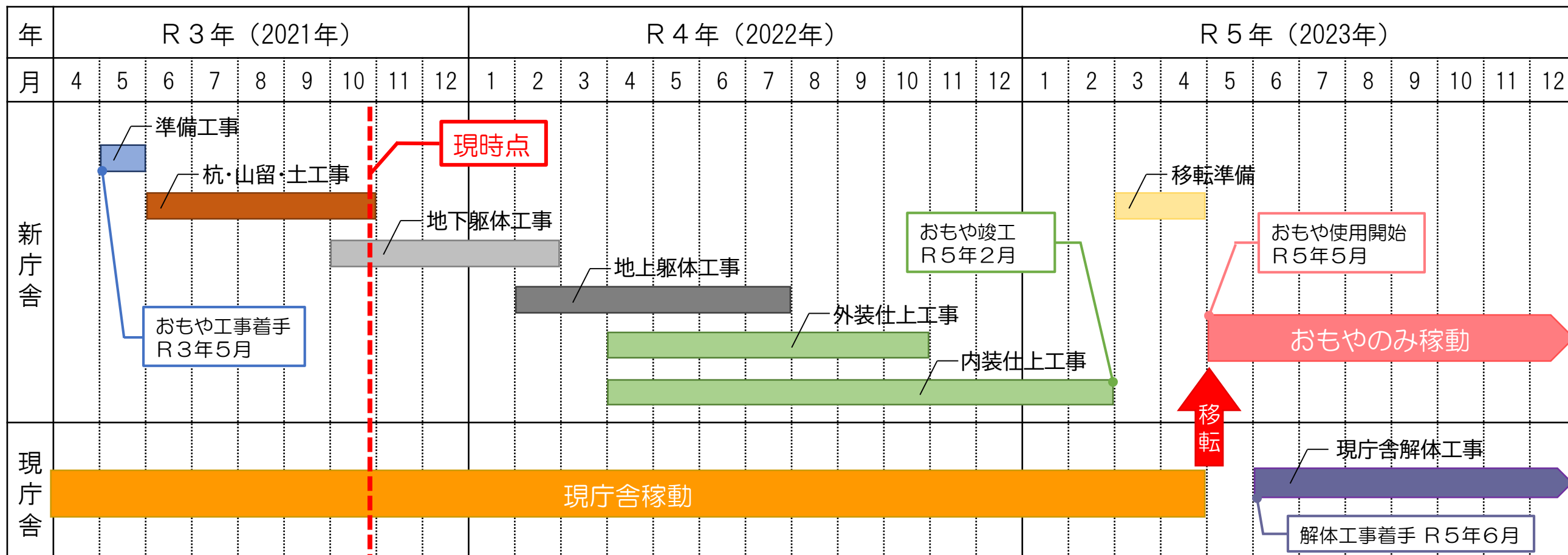
【配置計画】



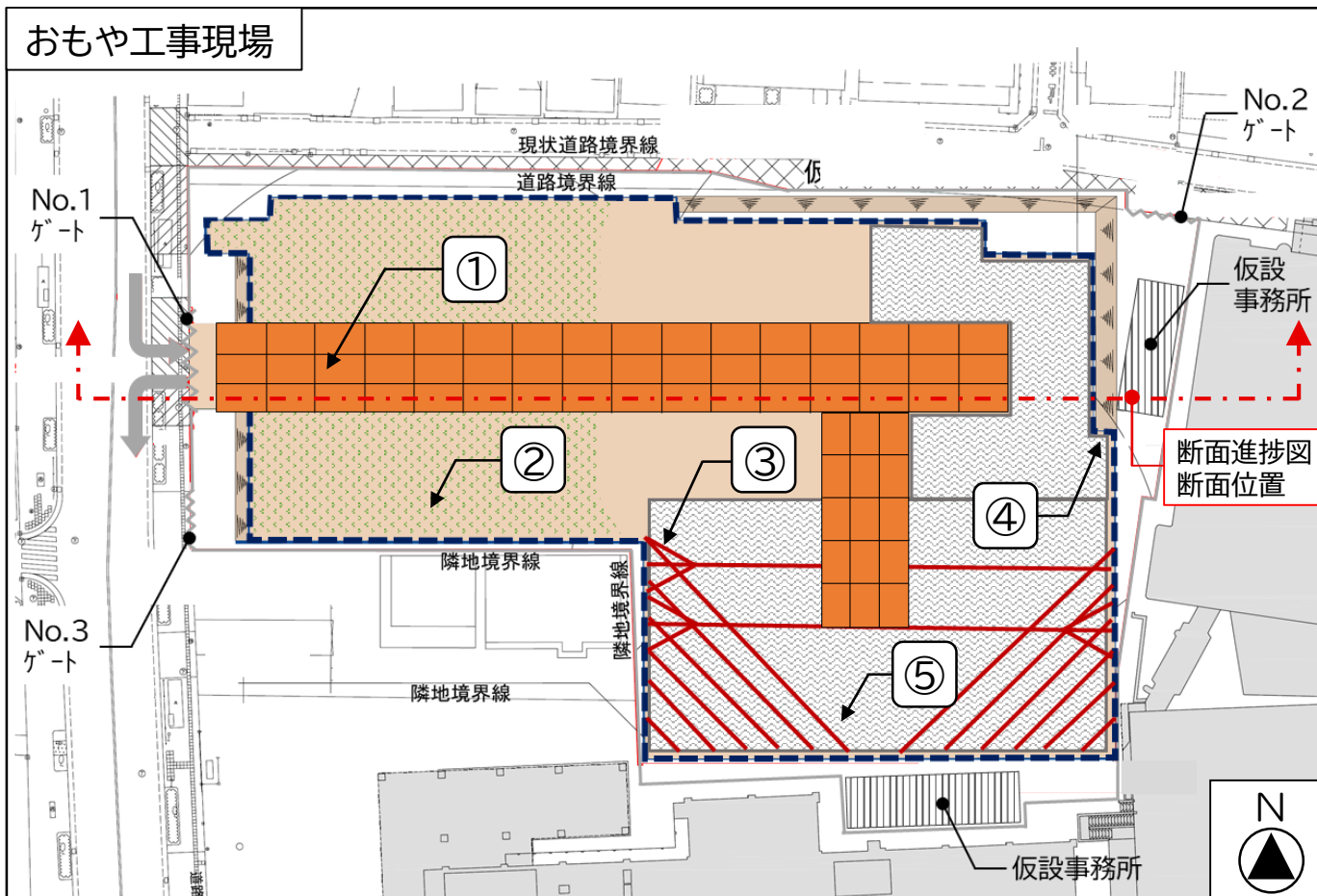
【航空写真（R3.9月末時点）】



【工程表】



【平面進捗図】



① 構台架設工事



- 「構台」とは、工事車両を現場内に乗り入れるための仮設の作業台です。
- 大きさは幅8m、長さ65mで、約2t/m²の重量にも耐えられるように頑丈につくられています。
- 構台には転落防止用の「手摺」を設け、作業員の安全を確保しています。

② 掘削工事



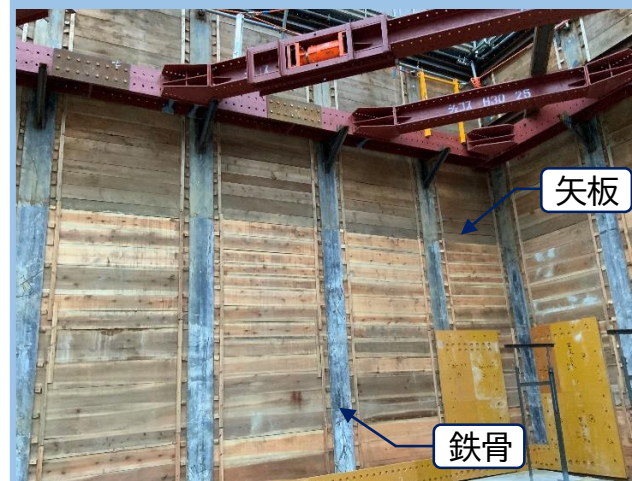
- 建物の地下部分を建築するために、地面を掘削しています。
- 周辺道路面から約7mまで掘り下げるため、周囲の安全確保をしながら順次作業をしています。
- 一日に25mプール約2杯分の土をダンプカーに積込んで、搬出しています。

③ 切梁(きりばり)仮設工事



- 土留壁に発生する土圧を、つかえ棒のように「鉄骨(口鋼)」で押さえることで、周囲の地盤の安全を確保しています。
- 鉄骨には土圧を測定する「ジャッキ」を取り付け、土圧に変化がないか毎日測定をしています。

④ 山留(やまどめ)工事



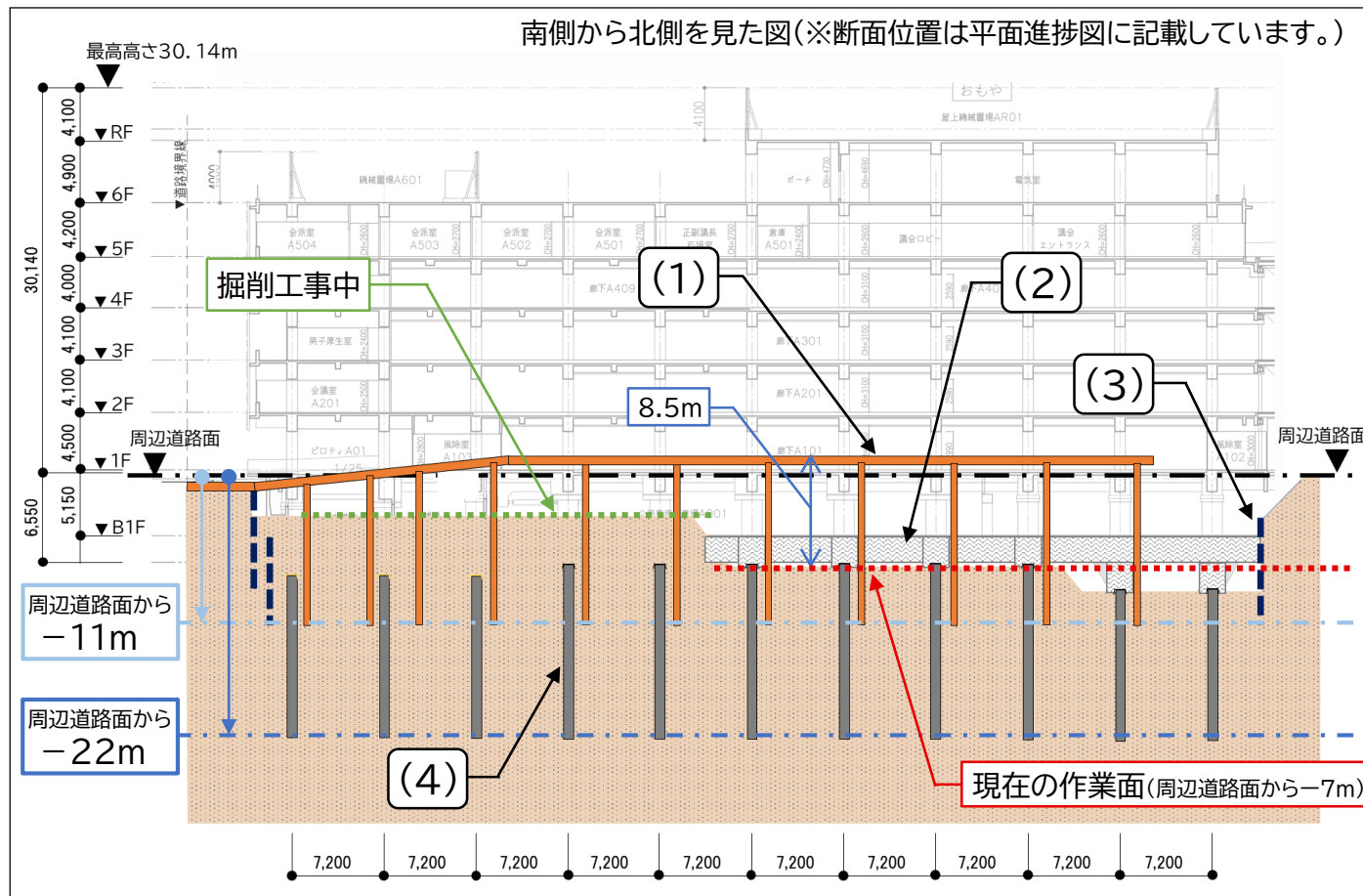
- 「山留工事」とは地下工事中に周囲の地盤が崩れないようにするための土留壁を設置する工事です。
- 支えとなる「鉄骨(H鋼)」を地中深くに差込み、その間に「矢板(やいた)」と呼ばれる木板を敷き入れて、高さ約7mの土留壁を作っています。

⑤ 基礎躯体工事



- 「捨てコン」と呼ばれるコンクリートを敷設して、基礎躯体の位置出しを行い、「受架台」を利用して、鉄筋組立作業をしています。
- 基礎の下には、「既製杭(コンクリート製)」が埋め込まれており、建物の荷重を支える役割を果たします。

【断面進捗図】

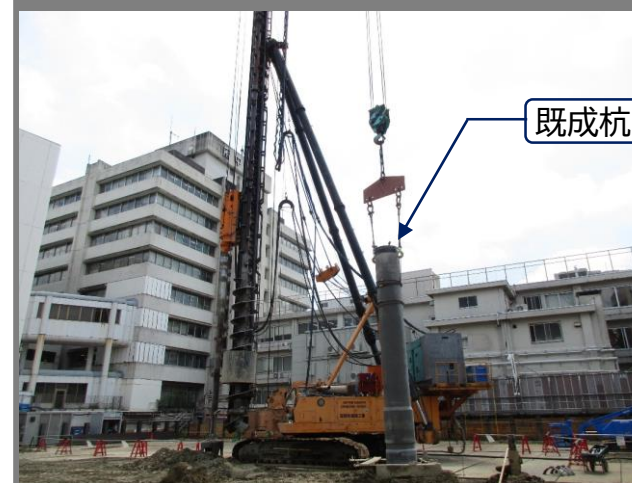


(3) 山留(やまどめ)工事



- 「矢板(やいた)」一枚の長さは約1.5m、厚みは3~6cmで杉材を使用しています。
- 「鉄骨(H鋼)」は、周辺道路路面から約11mの深さまで埋め込まれています。また、地盤を抑える役割を果たす「矢板」は、一枚ずつ作業員の手作業で設置されたものです。

(4) 既製杭打設工事



- 建物基礎の下に、長さ約15mの「既製杭(コンクリート製)」が埋め込まれています。
- 重機に設置したオーガスクリヤーで、地中深く掘り下げて、掘削した穴に既製杭を落としこんでいます。「おもや」工事では、78本の既製杭を設置しました。

(1) 構台架設工事



- 構台上には、ラフタークレーンを配置し、資材等の揚重作業をしています。
- 構台を支えるために、「鉄骨(H鋼)」の柱と梁が組み立てられ、地下の掘削面から構台までの高さは約8.5mです。
- 鉄骨の柱は周辺道路路面から11mの深さまで埋め込まれています。

(2) 基礎躯体工事



- 建物の土台となる基礎をつくるため、鉄筋の配筋作業と、コンクリート打設のための型枠工事を実施しています。
- 基礎は、大きいもので高さ2.3m、幅4.8mあり、大規模な建物を支えるため、堅固につくられています。

重機の紹介: バックホウ



- 「ショベルカー」とも呼ばれ、土の掘削、積込作業を行う機械です。大きさも様々で、大型のものは「バケット」1杯で、シャベル600杯ほどの土を掘ることができます。
- 機械の先端にある「バケット」は、別のアタッチメントに取替えて多様な作業に使用できます。